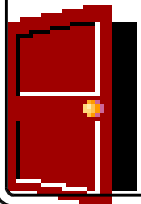


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年10月20日 文責 渡邊

## 感想を寄せてくださりありがとうございます！

今回は、保護者の皆様方から寄せられた感想を紹介いたします。  
始めに、図書館についてのものです。

「読書活動への扉を開く」（9月20日号を読んで）

子供の時に、家よりも図書館で勉強することがありました。勉強が終わった後は、集中して学習ができた自分に嬉しくなりました。友達と行けば教え合えるし、一人で行っても自分で考える力がつくし、是非、図書館で本以外の目的でも利用させたいです。（6年生保護者）

私自身が公共の図書館で学習したのは、大学生の頃だったように記憶しています。幼少期には、近くに学習センターとしての機能をもった図書館はありませんでした。町の公民館に図書コーナーがあっただけでした。大学では、大学の図書館や県立の図書館はとても静かな環境で落ち着いて学習に取り組むことができました。

自分に娘ができたときには、家の近くに立派な図書館（沼津市立図書館）が建ち、彼女たちとよく自転車に乗って出かけました。昼には、近くの洋食屋さんでハンバーグステーキをいただきました。今はとてもよい思い出となっています。

次は、「メタ認知能力」の説明についての感想です。

「読書活動への扉を開く」（10月17日号を読んで）

メタ認知能力の説明を読んで、「（私がメタ認知あるのか心配だ一）と感じてしまいました。確かに読書で、自分と環境も考え方も違う登場人物に出会うと、自分を俯瞰することができますね。選ぶ本も偏りがちなので、お友達が好きな本、おすすめの本を読んでみるとさらにメタ認知能力がアップするのかもしれないですね。（4年生保護者）

「読書活動への扉を開く」（10月17日号を読んで）

思い返せば、私も小学生の頃はよく本を読んでいました。でも、成長と共に本を読まなくなりました。そして、大人になって改めて読書の大切さを知りました。誰でも一度は「自分はこれでよいのか」「あの時、もっとこうすればよかったのではないかな…」と思い悩む時期があると思います。その解決策の一つが、読書だと思います。そして、「いろいろな意見があってよい」「いろいろな人がいておもしろい」とポジティブに物事を捉えることができるようになれば、お互いを理解し合ったり、許すことができるのではないかと思います。大人も子供も1日を振り返り、自分を見つめ直す時間を設けることは、人生においてとても大切なことだと思いました。（3年生保護者）

図書にもいろいろな分野があります。その中で、随筆や評論、エッセイもたいへんおもしろく読むことができます。

司馬遼太郎著『対訳 21世紀に生きる君たちへ』（朝日出版社 1999年）の中に、「21世紀に生きる君たちへ」という話が載っています。これは、『小学国語』（大阪書籍6年下）にあった文章です。

『対訳 21世紀に生きる君たちへ』では、とても深いメッセージが私たち、そして未来人である子供たちに送られています。

私が持っていないで、君たちだけが持っている大きなものがある。未来というものである。

私の人生は、すでに持ち時間が少ない。例えば、21世紀というものを見ることができないにちがいない。

君たちは、ちがう。

21世紀をたっぷり見ることができるばかりか、そのかがやかしいにない手でもある。(中略)

昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに、空気と水、それに土などという自然があって、人間や他の動植物、さらには微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きているということである。

自然こそ不変の価値なのである。なぜならば、人間は空気を吸うことなく生きることができないし、水分をとることがなければ、かわいて死んでしまう。(中略)

一人間こそ、いちばんえらい存在だ。

という、思いあがった考えが頭をもたげた。20世紀という現代は、ある意味では、自然へのおそれがうすくなった時代とっていい。(中略)

この自然への素直な態度こそ、21世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういうすなおさを君たちが持ち、その気分をひろめてほしいのである。

そうなれば、21世紀の人間は、よりいっそう自然を尊敬することになるだろう。そして、自然の一部である人間どうしについても、前世紀にもまして尊敬し合うようになるにちがいない。そのようになることが、君たちへの私の期待でもある。

さて、君たち自身のことである。

君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。

—自分に厳しく、相手にはやさしく。

という自己を。

そして、すなおでかしこい自己を。(後略 ※いい話はまだまだ続きます)

自然に触れることは大切なことです。桑村小学校は、このことからすばらしい環境下にあることが分かります。ここで大切なことは、豊かな自然環境の中での体験活動から、自然の大きさに気づき、それを大切にしようとする思いをいかに育むかであるように思います。これからも豊かな体験活動から「感性」を育てていきたいと思えます。

保護者の皆様、感想をお寄せくださりありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(10月20日号)を読んでの感想

( )年( )